



愛知県国際展示場コンセッション 5年間レビュー

目次

はじめに.....	1
1. 大規模展示場の基本構想.....	3
(1)背景・経緯.....	4
(2)事業構想.....	5
(3)建設地の選定	6
2. 施設の整備	9
(1)整備事業について.....	10
①施設整備のコンセプト.....	10
②事業手法(DB 方式).....	10
③施設設計・整備	12
④整備スケジュール.....	12
(2)施設について	14
①概要	14
②施設の構成	14
③環境対策・バリアフリー	19
3. コンセSSION方式の導入	23
(1)コンセSSION方式について	24
①コンセSSION方式とは	24
②コンセSSION事業に係る手続き	25
(2)愛知県国際展示場コンセSSIONについて.....	27
①コンセSSION方式の導入背景・経緯.....	27
②事業目的	28
③事業構成	29
④運営権の存続期間.....	30
⑤事業実施体制.....	30
⑥事業実施に係る財政支援	30
⑦事業者選定.....	31
4. 各業務の分析・評価.....	35
(1)統括マネジメント業務.....	36
①組織体制	36
②総務・経理、セルフモニタリング業務.....	38
(2)施設維持管理運営業務.....	41
①マーケティング・プロモーション業務.....	41
②誘致・営業業務	43
③予約管理・使用許可・料金徴収等業務	49
④催事開催支援業務.....	51
⑤施設維持管理業務.....	53

⑥修繕等業務.....	60
⑦渋滞対策、防災・災害対策等.....	61
(3) 附帯事業運営業務.....	65
①駐車場運営.....	65
②飲食・売店等利用者利便施設の運営.....	66
③総合保税地域の機能を活用した展示会支援.....	69
(4) 官民連携による需要創造推進業務.....	70
①運営体制の構築.....	70
②地域プロモーション事業.....	70
③DMC 事業.....	72
④展示会等企画・開催事業.....	75
(5) 任意事業.....	76
5. 施設利用者の意識調査.....	79
(1) 意識調査の概要.....	80
(2) 施設利用者へのアンケート調査.....	80
①回答者に係るデータ.....	80
②施設に対する評価.....	82
③まとめ.....	87
(3) 催事主催者へのヒアリング調査.....	89
①調査の概要.....	89
②施設に対する評価.....	90
③まとめ.....	97
6. マネジメントとガバナンス.....	99
(1) マネジメント.....	100
①官民のリスク分担.....	100
②新型コロナウイルス感染症に係るリスク対応.....	100
③AICEC の収支実績.....	102
(2) ガバナンス.....	102
①ガバナンスの目的、方針.....	102
②モニタリング.....	103
③第三者機関の設置.....	104
7. 総括.....	107
(1) 愛知県国際展示場コンセッションの目指す姿.....	108
(2) 業務の実施状況.....	108
(3) 官民連携と相互協力.....	109
(4) 今後の取組のあり方.....	110
おわりに.....	111

はじめに

2019年8月、中部国際空港セントレアが位置する空港島において、約280,000㎡に及ぶ広大な敷地と、延床面積約90,000㎡、展示面積約60,000㎡を誇る大規模展示場、愛知県国際展示場(Aichi Sky Expo)が開業しました。2010年代以降、展示会や見本市を含むMICE産業の成長を見込み、全国各地で新たなMICE施設の整備や増設を図る動きが進む中、愛知県においても、国際観光都市としての魅力を向上させるべく、2015年度に「国際観光都市推進事業調査」を実施して以降、約4年の検討・整備期間を経て事業を開始しました。

本施設の整備は、愛知県が日本一の産業集積地であることを踏まえ、「産業首都 愛知の新たな交流・イノベーション拠点の創造」をコンセプトとして進めました。

本施設は、設備面においては、展示施設に加え、屋外多目的利用地や各種会議室、フードコートや売店などの多様な機能を備えるとともに、県産材の利活用や、メガソーラー太陽光パネル、ハイサイドライトの導入などにより、地域や環境に配慮した施設となっています。また、運営面においては、愛知県においてMICE施設運営のノウハウの蓄積がなかったことや、官民で連携して展示会等を育て上げる必要があったことを踏まえ、民間事業者のノウハウやアイデアによる効率的な運営と、官民連携による効果的な見本市・展示会等の需要創造を図るために、全国の国際展示場では初となる、「民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律」(PFI法)に基づく「コンセッション方式」を導入しています。

2020年以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界中で経済活動が抑制された中、開業すぐの本施設においても、数多くの催事の延期や中止、催事の開催方法の見直し等、影響を大きく受けました。しかし、本施設の運営事業者である愛知国際会議展示場株式会社(AICEC)の経営努力や、官民連携による取組により、本施設は一度も赤字を計上することなく経営されています。

AICECは、施設の管理者としてだけでなく、より高い公共サービスを提供する「ビジネスパートナー」として、愛知県と連携して展示場運営を進めており、こうした運営を継続することにより、利用者と地域は良質なサービスを、愛知県はインフラの効率的な管理と確実な運営を、運営事業者と構成企業は新たな事業機会とリターンを得る、「三方良し」を実現できると考えています。

愛知県及びAICECでは、これまでの5年間で得られた各業務の成果や課題、コロナ禍への対応から得た教訓、利用者・主催者からの指摘などを振り返り、総括するとともに、今後開催が予定されている、アジア・アジアパラ競技大会や技能五輪国際大会などの大規模国際催事も見据え、本レビューを、「施設運営の全体的な強化・改革を進めていく」ための重要な機会ととらえています。本施設のさらなる利用促進と利用者の満足度向上、ひいては地域経済の発展に資するため、今後も官民で連携して不断の取組を続けてまいります。

2025年6月
愛知県観光コンベンション局
愛知国際会議展示場株式会社

